

インターンシップで得たこと

2008年度修了(会計専門職専攻) 新井 佳菜子



この度私はインターンシップに参加させていただく機会をいただき、トーマツ監査法人に伺わせていただきました。憧れの監査法人への訪問とあって初日から緊張の連続でした。

最初に大きく感想を述べると、インターンシップでの5日間は、私の勉強に対する取り組み方、将来の描き方、自分に必要とされることなどを全て塗り変えてくれるものでした。インターンシップで主にしたことは模擬監査だったのですが、それにより「監査の方法」を学ぶだけではなく、そこで交流を持たせていただいた監査法人の方々から色々なことを聞くことが私にとって貴重なものとなりました。私たち学生にとってたくさんの会計士の方々と日常的に交流を持つことはなかなかできません。しかし、このインターンシップの間はどこにいても会計士の方々がいるという、公認会計士を目指す私たちにとって夢のような環境でした。受験生時代の話や、入ってからの失敗談、会計士という仕事、たくさんのお話を伺うことができました。

インターンシップを終えて、「必ず資格を取得して監査法人で働きたい!」という強い気持ちや、会計士の仕事は「人とのコミュニケーション」なのだという新しい発見、監査の流れ・目的の具体化、などここでは書ききれないたくさんのことを得ることができました。改めて、公認会計士という仕事に憧れ、来年はそこで働いてみせるという強い気持ちを持ってがんばっていきます。このような素晴らしい機会を与えてくださった皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

監査法人でのインターンシップを経験して

2008年度修了(会計専門職専攻) 酒井 智代



2月23日から27日までの五日間、あずさ監査法人で行われたインターンシップ研修に参加いたしました。

同研修は法人説明に始まり、実査、立会、確認といった監査手続を中心に行われました。その中でも特に印象に残っているのが、立会のロールプレイングです。倉庫担当者に質問しながら監査を進めていくのですが、「誰がどのような情報を持っているのかを考えたうえで、各セクションの担当者に質問すべき」とのアドバイスをいただきました。私共受験生にとって、監査上必要となる情報は所与のものです。しかし、実際の監査において、情報収集は必須のプロセスです。会社という組織の中で分担されている権限と責任を把握したうえで、円滑なコミュニケーションをとる能力も、公認会計士に求められるのだと痛感いたしました。

また、歓迎会を開催していただき、監査法人で活躍される公認会計士の先生方のお話を伺うことができました。早く公認会計士試験に合格し、先生方のように実務の世界で活躍したいという思いが一層強くなりました。

最後になりましたが、同研修にあたって大変お世話になりました、あずさ監査法人の先生方および職員の皆様ならびに本大学院の先生方に、厚く御礼申し上げます。